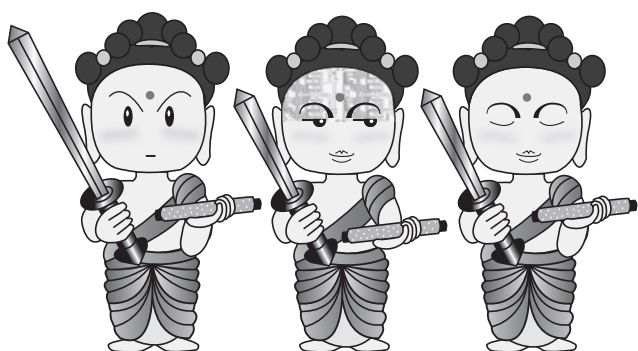


# 第13回ヘルスリサーチワークショップ オープン参加者公募

第13回ヘルスリサーチワークショップのオープン参加者を募集致します。

ヘルスリサーチについて多職種で語り合う「ヘルスリサーチワークショップ」にはこれまでに268名（重複含まず）の方が参加し、国際共同研究・国内共同研究を初めとするヘルスリサーチにおける連携の足がかりとして様々な成果を上げており、関係各方面から高い評価を頂いています。（第12回（2016年1月）の様子は当財団機関誌「ヘルスリサーチニュース vol 67（2016年4月号）」をご覧ください <当財団ホームページからご覧になれます>）

今年度も第13回ヘルスリサーチワークショップを下記要領で開催することになりました。参加者は約40名を予定していますが、オープン参加者（公募による参加者）を下記のとおり募集致します。新たな「“出会い”と“学び”」の2日間に期待をこめて、是非ご応募下さい。



## 第13回ヘルスリサーチワークショップ

テーマ：未来を変える  
～ネコ型ロボットと共生する時代へ～

開催日：2017年1月28日（土）・29日（日）

開催場所：アポロラーニングセンター <予定>  
（ファイザー株式会社研修施設：東京都大田区）  
参加者には追って詳細をご案内いたします

参加者：約40名

### 公募要項

オープン参加枠：6～7名程度

参加要件：下記分野の将来性ある若手研究者またはヘルスリサーチに関心ある実務担当者（年齢は不問）。共通言語は日本語（国籍は不問）。尚、動機書の提出と推薦者が必要です。

1. ヘルスリサーチ分野

経済学者、統計学者、経営学者、社会学者、心理学者、人類学者、哲学者、教育学者、法学者、倫理学者、医療疫学者、保健学者、医療マネジメント学者、医療情報学者、医療政策学者、医療システム学者、ゲノム医学者、など

2. 保健医療福祉分野

医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、ケアマネジャー、カウンセラー、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、社会福祉士、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、栄養士、など

3. 行政分野・メディア分野

保健医療政策の立案担当者、保健医療政策の実施担当者、メディアの報道担当者など

申込期間：2016年6月15日（水）～7月31日（日）<当財団事務局必着>

選出方法：申込者多数の場合は、幹事・世話人会にて選出。

選出結果は2016年9月上旬に本人に通知予定。

申込方法：財団所定の申請書式（当財団ホームページからダウンロードできます）に必要な事項をPCにて入力の上、当財団事務局へ郵便でお送りください。また同時に、WordファイルをE-mailにて、下記の当財団メールアドレスにもお送り下さい。

### 参加費・宿泊費無料

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7新宿文化クイントビル

Tel : 03-5309-6712 Fax : 03-5309-9882

E-mail : hr.zaidan@health-research.or.jp

URL : <http://www.health-research.or.jp>

# 第13回ヘルスリサーチワークショップ

## 未来を変える ～ネコ型ロボットと共生する時代へ～

### 趣意書

第13回をむかえた今回のヘルスリサーチワークショップは、これからの未来を先取りした少し夢を膨らませるテーマとして、ヘルスリサーチのもつ役割を創造していきたいと思います。

日本の高齢化は進み、2007年には高齢化率が21.5%と、超高齢社会に入りました（内閣府・平成27年度版高齢社会白書）。今後の日本の総人口は、2050年には1億人を割って9708万人、2060年には9000万人を切ると推計されています。今後ますます高齢化は進み、人口ピラミッド構造も変わります。65歳以上の高齢者は、2035年には約3人に1人、2060年には2.5人に1人になると推測されています。さらに、地域の偏在も大きく進むといわれています。地方から東京への人口移動が続き都市部の高齢化が進行し、特に東京圏では医療・介護の提供が大幅に不足すると言われていました。一方、地方では人口減少は進むものの高齢化は進まないという指摘もあります。人口流出により消滅する自治体が出てくる可能性があります。このような状況で、老老介護、独居世帯の増加が予想されています。

2003年、WHOは健康の社会的決定因子（Social Determinants of Health: SDH）におけるSolid Facts（確かな事実の探求）として、10のテーマ（社会格差、ストレス、幼少期（の発達・発育）、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通）を挙げています。今後、人口動態や地域格差が広がり、これらSDHが、我々の健康に与える影響はますます大きくなるのではないのでしょうか。

日本は世界的にも極めて多様性に富んだコミュニティの集合体と言えます。最近では日本に暮らす外国人や性的少数者（LGBT）の文化・価値観を考える機会が増えました。ホームレス、失業者、貧困層、無年金、ひとり親家庭、虚弱高齢者の存在など、地域における教育格差、健康格差が大きい状況に対して、ナショナル・ミニマムをどう担保していくか。これらも将来に向けて考えていくべき課題です。

高齢化や地域の偏在が進む社会へ、我々が対応していくためのヒントはいくつか提示されています。

1つめは、機械による解決です。人手の不足する介護現場にロボットを取り入れる動きはすでにあります。また、介護業務の支援をする介護支援型ロボット、介護される側の自立を支援する自立支援型ロボット、コミュニケーション・セキュリティ型ロボットなどのほか、近年は人間にそっくりな等身大のアンドロイドの開発も進んでいます。例えば、人間と自然に対話ができるアンドロイドERICAは2015年にすでに開発され、今後はより違和感のない自然な会話を追求し、見た目と振る舞いを統合的に進化させることで自立対話型アンドロイドの実現を目指すといわれています（科学技術振興機構ホームページ）。

また人工知能（Artificial Intelligence：AI）の発展が近年注目されています。2016年の星新一賞では、人間と人工知能による共同創作小説が1次審査を通過したというニュースは記憶に新しいことでしょう。人間と機械のコミュニケーション能力も、自然言語処理能力が進展することで向上する可能性が指摘されています。米国IBMの



推進するWatsonは、人間の話し言葉を理解し、質問に対して正解を探す学習を重ねることで、確度の高い回答を導き出すことができることを特長とします。医療面でも人間を超える診断力が期待されており、自治医科大では診療サポートが始まります（2016年3月28日朝日新聞デジタル版）。

著しい進歩が進めば進むほど、ロボットが人間に何かしらの弊害を与えないか、という危惧も生まれます。しかし私たちは、ネコ型ロボットをはじめ、機械と人間がともに生きていくアニメなどの影響を受けてきました。感情の豊かなロボットと人間が共生できる日は来るのかもしれませんが。

2つめは、ヒトによる解決です。人口減少、高齢化社会に対して、海外からの移民を受け入れ対応しようという動きがあります。我が国における外国人の受入れ実績は、諸外国に比し大きく遅れている現状があります。内閣府は「目指すべき日本の未来の姿について」（2014年2月）のなかで、移民を年20万人受け入れることで、1億1千万人の人口を維持すると提言しています。また、厚生労働省「外国人介護人材受入れの在り方に関わる検討会報告書」や、法務省「外国人介護人材の受入れについて」では、介護福祉士資格等を取得した外国人留学生の卒業後の国内における就労を可能とするため、在留資格の拡充を含め、年内を目途に制度設計等を行うことが提言されています。2015年の国家戦略特区法の改正案では、外国人医師が日本で診療できる臨床修練制度の規制が緩和されました。医療・介護サービスの足りない地域への提供を目指すために様々な対策が現在もなお検討されています。

一方、日本では2020年に東京オリンピックが開催されます。オリンピックの基本コンセプトの1つに「多様性と調和」があり、「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩」と記載されています。海外からの移民を積極的に受け入れるには、文化・思考の多様性との調和は欠かすことが出来ません。

さて、来る人口減少社会と発展する科学技術、進む多様性のなかで、我々はヘルスリサーチをどう活用していくのでしょうか？ 日本の労働人口の49%が人工知能で代替可能となることが指摘されているなか、医療もコンピューターに代替されやすい仕事とされています。我々医療関係者の社会への貢献はどう変わっていくのでしょうか。また多彩な背景の様々な人種が社会で活躍するようになり、人々の新たな文化・価値観が作られていく将来、ヘルスリサーチに求められる役割は変わっていくのでしょうか。

どのように調和を図り、かつ、相乗効果的な貢献を生み出すことができるのか、今回のワークショップを通じて皆さんと考えていきたいと思っています。

第13回ヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人一同

代表幹事



北村 大

幹事



朴 相俊

幹事



渡邊 奈穂

幹事



高尾 総司

世話人



窪田 和巳

世話人



岡田 浩

世話人



福田 吉治

世話人



高橋 美佐子

世話人



石堂 民恵

世話人



豊沢 泰人

敬称略



# 幹事・世話人からのメッセージ

## 代表幹事 北村 大

三重大学 医学部附属病院・総合診療科 助教

趣意書の原案を書き、幹事・世話人で内容を練る時期に熊本地震が起きた。生まれ故郷であり、身内の大多数が被災した今回の地震は、地震と無縁と思い込んでいた土地での想定外の出来事で、自分の人生観を大きく変えるものだった。発災からちょうど1ヶ月を迎える時期にようやく支援に行った。最も被害の大きかったこの地の避難者は、非難直後から恐らくほとんど環境を変えられずにいる、大変過酷な状況にあった。ラジオではソーシャルキャピタルの重要性が繰り返し放送されていた。我々の仕事・生活をサポートする環境は驚くほど進歩している。人と人、人と地域の繋がり。そこに求められるものが何かを突き詰めていく先に多様性と共生する未来が見えてくる気がする。

## 幹事 朴 相俊

公益財団法人身体教育医学研究所 研究部長

2011年に発刊された世界的ベストセラー、サピエンス(著者:ユバル・ハラリ)では、未来を人工知能(AI)の時代と予測している。ユバル教授は、30~40年後にはAIなどの先端技術が現在のほぼすべての職業から人間を押し出す(感情が必要な分野でさえ)可能性がある」と指摘しているが、そうなると、仕事を通じて生きがい求めた人々は、生の意味に迷うことが自明である。AI(知性)の優位性が考えられる未来で、人が目指すべき幸福は何だろうか。それは、目には見えない人の内面の豊かさかもしれないが、とにかく、人間とは・幸福とは何かのような問いへの答えが欲しい時が迫っている。AIとの共生の道で人間が目指すべき幸福、皆さんの話が聞きたい。

## 幹事 渡邊 奈穂

東京慈恵会医科大学医学部看護学科 助教

ヘルスリサーチワークショップへようこそ。ここは、様々なバックグラウンドの参加者が出会い、肩書きも年齢も関係なくフラットな関係性でとことん熱く語り合える、そんな場です。初めて参加される方はきっと緊張されることと思いますが、安心してください。数時間も経てば普段とは違う出会いと知的な刺激に、「明日から何か始めたい!」というエネルギーが漲り、仲間との熱い語り合いに居心地の良さを感じるはず。東京オリンピックを4年後に控え第13回を迎える今回は、急速に進む多様性や人工知能(AI)などのテクノロジーの進化といったキーワードから、少し先の未来を皆さんと一緒に考え描いてみたいと思います。

## 幹事 高尾 総司

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野 講師

「多様性と調和」として、さまざまな「連携」がテーマとして取り上げられてきた。とうとう来たかというか、やはり避けられないか、というのが今回のテーマであろう。人種に対する調和は、観光客の増加という点からすでに目の前の課題となっているが、人工知能との調和は、まだあまり真剣に考えたことがない参加者も多いと思われる。しかし、人工知能が「全人類の知能を超越する」日が訪れることにより、減少・消失することが予見される職種・業務についての様々な報告も耳に新しい。ヘルスリサーチにおいても、独創性の乏しい追試験的な実証研究はアルゴリズムとビッグデータによるシミュレーションで事足りるようになってしまっても構わない。

## 世話人 窪田 和巳

横浜市立大学医学部臨床統計学 助教

第9回ヘルスリサーチワークショップ(HRW)より参加の機会をいただき、第11回から世話人を拝命いたしました。HRWは、「ヘルスリサーチ」の名のもと、さまざまなバックグラウンドの方々为全国から集まり、フラットな立場で切磋琢磨しあうことのできる貴重な場です。私自身もこの4年間で素敵な仲間とたくさん出会い、多くのコラボレーションをさせていただく機会に恵まれました。これまでご参加いただいたメンバーに加え、新たなメンバーにもご加入いただいた今回のHRWでは、これまで以上に、「わくわく」と「もやもや」を感じてもらえるような2日間になればと思います。当日はぜひお声掛けください。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

## 世話人 岡田 浩

京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室

囲碁のプロ棋士への勝利が大きく報道されたように、近年人工知能(AI)の発展はめざましいものがあります。科学技術の進展は、社会の姿だけでなく人々の規範や倫理も次第に変えていったように、人工知能は今後社会をどのように変えていくのでしょうか?想像することもなかなか難しいのですが、医療とヘルスリサーチの有り様や、人の生業と幸福の姿はどうなっているのか、多様なバックグラウンドを持つ参加者の皆さんと2日間語り合いたいと思っています。毎回このワークショップでは、わくわくする出会いと熱い議論を楽しみにしています。

## 世話人 福田 吉治

帝京大学大学院公衆衛生学研究所 教授

高度経済成長期に生まれ、受験戦争にたいして巻き込まれることも就職氷河期にひっかかることなく、バブルを謳歌した(本当は謳歌してないです)私も2040年には75歳(たしか...)。振り返ってみると、自分(の世代)の生活がよりよくなるようにとヘルスケアのリサーチと実践に励んできたような気がします。後期高齢者に入った私が安心してヘルスケアが受けられる世の中を考えるのも悪くないけれど、次世代や次々世代のことをもっと真剣に考えたほうがいいですね。2040年って、ほんとうにどんな世の中になっているのでしょうか。子供たちや孫たちが幸せに暮らしていることを願うばかりです。

## 世話人 高橋 美佐子

朝日新聞 文化くらし報道部 記者

「人間の行動すべてをコンピューターで説明できるよう貢献したい」。2016年に私が元旦一面で取り上げた19歳の大学生の言葉です。IT界の天才プログラマーとして世界的に期待される彼は、ベンチャー企業役員として大手企業のリーダー研修のプログラミングを担当する一方、手元には「胡椒 暴虐の世界史」という図書館で借りた本がありました。もし人工知能で「人間とは何か」を解析できたら、一体どんな未来が待っていて、病気やその先の死という「不条理」に人類はどう向き合うのか。歴史が持つ意味さえ変わるんじゃないか。妄想大歓迎、タブーも拒まず、自由に語り合えたら嬉しいです。

## 世話人 石堂 民栄

チームグクルLLC 代表社員・保健師

「地域・元気・コミュニケーション」をキーワードに、一人の元気が地域の元気に、地域の元気がひとり一人の元気につながっていくよう、ヘルスコミュニティとヘルスツーリズムを実践中です。AI(人工知能)が生活の中に当たり前で活用される未来がすぐそこまで来ている、、、、子どものころ「わぁ〜」と夢見たドラえもんや鉄腕アトムのように、人を助けてくれるAI(人工知能)が現れるのか?どのように向き合い、関わっていくのか?そして、それは、豊かに生きること、自分らしく生きることにつながっていくのか?わくわく、ドキドキしながら、2日間、みなさんと元氣交流できることを楽しみにしています。よろしくお祈りします。

## 世話人 豊沢 泰人

ファイザー株式会社 経営政策管理本部 執行役員本部長

私の生まれた頃の日本の人口は9000万人、65歳以上の人口はそのうち僅か500万人であり、平均月収が34000円程度の貧しい時代である。ドラえもん誕生の10年以上前の、鉄腕アトム、鉄人28号が活躍する東京オリンピックを目指して近代化を準備中の、携帯電話もPCも存在しない昔の日本である。それが現在ではロボットは実用化され、当時夢であった宇宙旅行が目前に近づいている。当時に比べれば、科学の進歩が人間の生活を格段に近代化しており、裕福で幸福な社会を実現してもよさそうなのに、実際には子供の頃夢描いていた社会とは幾分か異なる。それが何であるのか、ロボットと共生する時代に向けた今回のHRWで考えてみたい。

(敬称略)